

巻頭言

「医療は町づくりの基本」

病院長 久保田 宏

「医療と町づくり」と言いますと、一見関係がないように見えますが、大きな関係があります。それはどういうことかと言いますと、町づくりに関しましては、「産業振興」「観光振興」「地域振興」など、いろいろな切り口から話が出てまいります、それらを推進するのは、基本的には「人」であります。なんといっても、一定の人がその地域に住むことが大事でありまして、これなくして「町づくり」は始まらないわけであります。

「人」が地域に定住するうえで、何が重要かと考えますと、沢山のことがありますが、そのうちの大事なひとつが、そこで「安心して暮らせる」ということであり、この「安心」を支えるのが「医療」であります。

このように「医療」と「町づくり」には大きな関係があり、批判を恐れずに言いますと「医療は町づくりの基本」であると、私は考えております。

さて、名寄市におけるわが病院の立場を考えてみますと、私は基本的に、ひとつの「地場産業・サービス産業」だと考えております。何故かと言いますと、医療における病院を取り巻く関係者を、挙げてみますと次のようになります。

お客さんであります沢山の患者さんがおり、私たちの病院では、その半分が名寄市内、残りの半分の皆さんは、名寄市以外のところから来てくださっております。また、多くの病院職員がおりまして、この職員のほとんどが地域からのリクルートであります。そして、連携してやっております地域の病院・診療所、院外処方調剤薬局、また、医薬品の卸、診療材料の提供者、介護保険の業者、遠方からの患者さんの家族が宿泊するウィークリーマンション、さらに、買物をする商店・デパートなど、沢山のものが周りにあります。

私は、これはまさに名寄市において、われわれが行っている「医療」は、病院を中心とした「産業クラスター」の形態を成していると考えております。

このように、われわれの病院は、名寄市の交流人口の増加、商店街その他に与える経済効果など、名寄市の町づくりに大きな関係をもっております。

職員のみなさん、どうか、わが病院の将来を考えるときには、病院のことだけではなく、名寄市の「町づくり」のことも考慮し、病院の将来展望をしていただきたいと思います。

平成 13 年 4 月 25 日